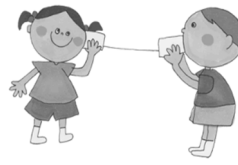


いと

系でんわ



『デマ』と『うわさ』 の授業感想 （11月26日実施）

「デマ」を耳にしたら、たぶん、信じてしまうと思う。ネットやSNSなどだったら、少し疑うと思うけど、友だちや家族などに言われると、自分の信じている人たちだから、「〇〇さんが言っているんだから、そうなんだ」と思ってしまうと思います。だけど、今日、この授業を通じて、「うわさ」や「デマ」などを簡単に信じて、他の人に広めたりはしないようにしようと思えました。自分の考えが変わり良かったです。

自分が実際に見てもない「デマ」や「うわさ」を信じ込むのをやめれば、ギロン星人みたいな被害者は減ると思いました。あと、人から聞いた「うわさ」や「デマ」を人に流すのもやめると、被害はなくなると思います。「百聞は一見に如かず」なので、とにかく自分の目で確かめるのが一番だと思います。

自分がギロン星人だったら、正体を明かせずにいると思う。理由は、差別や偏見で苦しめられたくないし、黙っていれば済むと思ったから。けれど、本当の自分を打ち明けないまま、地球人の友だちと仲良く出来ていても、壁を感じたり、この人と自分は違う・・・という何かしら認めてもらえなかったりする状況だと辛いし苦しいだろうなと思う。

自分はギロン星人のように、「デマ」を流されたことがないし、差別されたことがないから分からないけど、よく考えたらギロン星人ってかわいそうだなと思った。自分もこういう「デマ」を小学生の時に聞いたことがあるし、それで困っている人を見たことがあるし、自分もそういう「デマ」を流したことがある。自分が「デマ」や「うわさ」を流していた時は全く悪いと思ってなかったし、「デマ」であることすら知らなかったから、いま考えてみるとその人に失礼な事をしたし、その人は悪いことをしてないのに悪い奴に自分たちがしていたから、そういうことがないようにしたい。よく言われているけど、いじめている奴は自分がいじめていると知らないし分からないから、ギロン星人の「デマ」を流した奴らも、ギロン星人をバかにしようとしてやったことじゃないと思うけど、知らないうちに「ウソ」が広がって本当の事みたいなものになっていくのは怖い事だと思った。

ひとつの「うわさ」でこれから人生が変わってしまうということを心において気につけようと思った。芸能人とかよく「デマ」とか流されたりしているけど、意外と身近な問題でもあるし、今までそれほど考えたこともないし、自分自身も「デマ」を信じていたりしているところもあるから改めて考えようと思えた。自分がそこにいたら、信じてしまうと思う。

もし、自分が物語の中の地球人だったら、もちろん自分から「デマ」を広げないし、会話している相手が「デマ」を信じている人がいたら、「違うんじゃない?！」と言うべきだと思います。私も「うわさ」されたり、それをネタ（というか面白おかしく）にされたときは、すごく嫌だったので、私も知らず知らずのうちにしないように気をつけたいです。

もし、自分がギロン星人の立場で、「デマ」や「うわさ」がたくさん広まってしまったら、嫌な気持ちになる。自分が「うわさ」を耳にしたら、信じてしまうかもしれないけど、「うわさ」を広めはしないし、その真実を先に確かめると思う。実際、「うわさ」や「デマ」が周りにはたくさんあるし、それを広めているのは自分たちだから、その「うわさ」が広まって、困る人や嫌な気持ちになる人がいることを知り、自分は「デマ」や「うわさ」を流さないようにしたいと思った。

今回の授業は「LGBTQ」の問題と一緒だなと思った。今、「LGBTQ」だというのは、とても難しい世の中になっている。だけど、自分たちが大人になる頃には、完全に差別がなくなるように努力していけたらいいなと思いました。

「デマ」や「うわさ」によって生活に困ったり、悩んでいたりする人もいるから、もし、そういうことを聞いても、鵜呑みにせず、一度疑問に思うことが大切のかなと思いました。そして、自分から気づかないうちに「デマ」や「うわさ」を広めないように、自分の発言にも少し意識を持ちたいです。

「デマ」や「うわさ」は身近なところに溢れているけど、そのほとんどが確かなものではなく、広まっているうちに、徐々にひどくなっていると思うので、「うわさ」は信用ができる情報しか信じず、違うとわかる時は「違う!」とって「うわさ」をとめられるようにしたいです。「デマ」だけにとどまらず、世の中には「〇〇って、絶対〇〇だよ」みたいな偏見があるけど、人のことを先入観だけで判断せず、物事を多角的な視点でみるのが大切だと思いました。

「デマ」や「うわさ」を発信する人たちと、それを信じたり、広めたりする人たちだけでは問題や差別は解消されません。まず、「あなたたち」を「自分たち」=「自分事」として考えることが解消する第一歩です。

自分たちは「〇〇出身だ!」ということを「ばらされる」「差別される」「いじめられる」という『恐怖』、自分たちの「幸せに生きる権利」を奪われた『怒り』は、今も身近に存在します。

「自分」にも「知られたくないこと」「隠したいこと」があり、友だちにも「本音が言えない」、学校では「ありのままの素の自分のままでいられない」などの窮屈さは、どこから来ているのか考えてみましょう。

最後に、「デマ」や「うわさ」だから広めることはダメだという感想が多くありましたが、「本当のこと」(真実)でも、本人に了承を得ずに、他人が言いふらすことは「アウティング」といい、絶対に許されることではありません。